

令和6年度 佐賀県献血推進協議会

日時 令和7年3月19日（水）15時～
場所 佐賀県庁 正庁（旧館4階）

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1） 令和6年度 献血事業実績について

（2） 令和7年度 佐賀県献血推進計画の策定について

（3） その他

4 閉 会

令和6年度佐賀県献血事業実績

I 献血実績

(1) 輸血用血液製剤の使用数

(単位:本)

区 分	由 来	令和5年度		令和6年度	
		計画	実績	計画	実績 (R7.1末時点)
赤血球製剤	200mL献血	26	24	24	33
	400mL献血	16,507	16,693	16,518	14,622
血漿製剤 <small>しょう</small>	200mL献血	2	10	0	16
	400mL献血	1,304	961	1,287	1,167
	成分献血	1,535	1,709	1,644	1,526
血小板製剤	成分献血	2,993	3,666	3,326	2,614

(2) 献血者数

(単位:人)

献血種類	令和5年度		令和6年度	
	計画	実績	計画	実績 (R7.1末時点)
全血献血計	20,335	19,782	21,570	17,133
200mL献血	299	210	284	72
400mL献血	20,036	19,572	21,286	17,061
成分献血計	13,462	13,334	13,032	10,409
血漿成分献血	8,936	9,729	8,513	7,315
血小板成分献血	4,526	3,605	4,519	3,094
合計	33,797	33,116	34,602	27,542

II 献血目標を確保するために実施した事業

(1) 献血に関する普及啓発活動

① 「愛の血液助け合い運動」(7月1日～7月31日)

- ・ 「踏み出す一歩 今日私が 誰かの未来」ポスターの配布

主な配布先：市町、保健福祉事務所等の県の機関、大学、高校、専門学校、自動車学校、医療機関、薬局等

- ・新聞誌上への「愛の献血助け合い運動」広告掲載

掲載日：令和6年7月16日

掲載紙：佐賀新聞

- ・献血功労者表彰・感謝状伝達式及び贈呈式

実施日	場 所	内 容
7月23日	県民ホール (県庁 新館 1階)	・献血推進協力団体に対する感謝状等の伝達・贈呈 厚生労働大臣表彰状(1団体) 厚生労働大臣感謝状(2団体) 佐賀県知事感謝状(1団体) 日本赤十字社金色有功章(2団体) 日本赤十字社銀色有功章(4団体) 日本赤十字社佐賀県支部長感謝状(4団体)

②はたちの献血キャンペーン(令和7年1月1日～2月28日)

- ・「誰かの明日を考える。はたちの献血」ポスターの配布

主な配布先：市町、保健福祉事務所等の県の機関、大学、高校、専門学校、
自動車学校、医療機関、薬局等

- ・大型商業施設での献血CM動画放映

期 間：1月1日～1月31日

場 所：セントラルフロアのデジタルサイネージ

放映内容：キャンペーンCM「ぼくらの持っているもの」篇(日本赤十字社)

放映回数：期間中1,800回放映(15秒CM)

③佐賀県献血推進キャンペーン

実施日	場 所	内 容	献血者数
12月21日	コムボックス 佐賀駅前	・街頭キャンペーンを実施(献血啓発 チラシ等200部を配布) ・同施設のNBCラジオ前に屋外特設 ブースを設けラジオ番組「R50」内 で献血についての特別コーナーを 公開生放送 ・同日同所で開催された「よかもち販 売促進イベント2024でラジオパー ソナリティーが献血への協力を呼 びかけた。	—

2月6日	鳥栖工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・お昼休みの約30分間、献血の大切さや献血への協力を呼びかける校内放送をパーソナリティーがラジオ番組風に実施 ・併せて、献血バスを配車 ・後日、校内放送の模様を、実際のラジオ番組(2月14日)やパーソナリティーのSNSで情報発信 	40名
12月16日～ 12月20日	-	・上記キャンペーンを告知する20秒ラジオCMを各49回放送	-

④ イベント会場等における移動採血車による献血

実施日	行事名	献血者数
4月29日 5月3日～5日	第120回有田陶器市	201人
10月31日 ※11/1～11/4は中止	2024佐賀インターナショナル バルーンフェスタ	55人

計 256 人 (前年度実績 697 人)

⑤ 学生献血推進協議会主催のキャンペーン

- ・クリスマス献血キャンペーン

実施日	場所	内容	献血者数
12月8日	基山町民会館 (ふれあいフェスタ会場)	献血者に「アロマオイル」を進呈	43人
12月15日	ゆめタウン佐賀		47人
12月22日	フレスポ鳥栖		50人

計 140 人 (前年度 153 人)

(2) 若年層対策

① 献血セミナー

実施日	実施団体名	受講人数
7月16日	佐賀県立鹿島高等学校	233人
8月1日	株式会社インズパークス	20人
8月9日	日本赤十字社探検隊	10人
8月25日	佐賀県薬剤師会館	100人
8月28日	佐賀市立城東中学校	2人
10月4日	佐賀大学教育学部附属中学校	4人
10月15日	佐賀県立伊万里高等学校	147人
10月29日	佐賀県医療センター好生館看護学院	39人
11月15日	鹿島藤津地区医師会立看護高等専修学校	10人
11月21日	学校法人伊万里学園敬徳高等学校	137人
11月29日	佐賀県立唐津工業高等学校	144人
12月17日	佐賀県立佐賀工業高等学校	240人
12月23日	佐賀県立鳥栖工業高等学校	740人
1月28日	佐賀県立嬉野高等学校（嬉野校舎）	60人
2月3日	佐賀県立厳木高等学校	80人
2月5日	佐賀県立神埼高等学校	140人
2月5日	佐賀県立神埼清明高等学校	160人
2月7日	佐賀県立鳥栖商業高等学校	180人
2月7日	佐賀県立佐賀商業高等学校	200人
2月10日	佐賀県立佐賀東高等学校	78人
2月10日	佐賀県立伊万里実業高等学校	53人

計 2,777人（前年度 3,816人）

② 高校献血

実施日	学校名	献血者数
10月4日	佐賀県立鹿島高等学校	22人
12月3日	佐賀県立致遠館高等学校	21人
12月5日	佐賀県立唐津工業高等学校	34人
1月10日	佐賀県立佐賀工業高等学校	37人
1月14日	学校法人伊万里学園敬徳高等学校	34人
2月6日	佐賀県立鳥栖工業高等学校（3年生）	40人
2月10日	佐賀県立佐賀東高等学校	24人
2月25日	佐賀県立鳥栖工業高等学校（2年生）	37人

計 249人（前年度 338人）

③ 大学、専門学校献血

実施日	学校名	献血者数
4月22日～25日 10月8日～11日	佐賀大学（本庄キャンパス）	240人 151人
5月27日～28日 1月21日	佐賀大学医学部（鍋島キャンパス）	68人 30人
4月16日 9月30日	西九州大学（神埼キャンパス）	18人 19人
5月10日 10月22日	佐賀工業専門学校	22人 23人
5月24日 10月25日	佐賀コンピュータ専門学校	22人 18人
2月27日	佐賀県農業大学校	19人

計 630人（前年度 644人）

④ 献血プラザさが（佐賀県赤十字血液センター）施設見学・職場体験

見学日／団体名	参加人数	内容
8月9日 日本赤十字社探検隊	10人	施設見学 献血セミナー
8月28日 佐賀市立城東中学校	2人	職場体験 献血セミナー
10月4日 佐賀大学教育学部附属中学校	4人	職場体験 献血セミナー
11月15日 鹿島藤津地区医師会立看護高等専修学校	10人	施設見学 献血セミナー
2月22日 若楠校区地域子ども教室	50人	施設見学 献血セミナー

計 76人（前年度 58人）

⑤ 献血啓発品作成

- ・クリアファイル（けんけつちゃん）
- ・ジェットストリーム（ 〃 ）
- ・修正テープ（ 〃 ）
- ・ワイヤレスイヤホン（ 〃 ）
- ・名刺デザイン（ 〃 ）

⑥ その他（インターネットやSNS等の様々な媒体を使用した啓発）

- ・ラジオ番組内で献血協力の呼びかけを実施（再掲）
- ・佐賀県献血推進キャンペーンイベントの様子をYouTubeで公開（再掲）
- ・佐賀県献血推進キャンペーンソング「LOVE WAVE」のダンス動画をTikTokで公開

（3）献血Web会員サービス「ラブラッド」登録の推進

- ・県内登録者数 14,491名（令和6年4月～令和7年1月新規登録：2,618名）
- ・メールまたはLINEによる献血依頼、イベント等の案内、リーフレット・情報誌等の配布
- ・献血カードのアプリ化導入並びに利用促進
 - ・献血予約、事前問診回答が可能となる
 - ・血液の検査結果等を含む献血記録をWebで閲覧できる
 - ・令和8年1月5日以降は献血手帳並びに献血カードは原則として利用できなくなるため、ラブラッドの利用を普及させることが喫緊の課題である

(4) 全血献血者に対する成分献血の推進

- ・全血献血協力者に対し、チラシ等を用いて成分献血の必要性を説明し、次回全血献血可能日までの間の成分献血協力を依頼している
- ・移動献血バスで 400mL 献血にご協力いただいた国立大学法人佐賀大学本庄キャンパスの学生対象に、成分献血送迎を実施している

(5) 市町ごとの献血活動の推進

- ・「市町成分献血の日」の実施（平成 16 年度～）
 - ・県内 15 の市町が献血実施日を設定し、年 1～2 /回成分献血を実施する
 - ・当日、市町ごとに成分献血協力者を確保する
 - ・献血会場への送迎は血液センターが実施する
(令和 6 年度：93 人 令和 5 年度：92 人)

(6) 成分献血協力者の確保

- ・近年、免疫グロブリン製剤等の血漿分画製剤の使用量が増加しており、令和 7 年度の原料血漿確保量は昨年度と比較して増加する見込みである
- ・成分献血者の確保対策として、全血献血者から成分献血への誘導を目的とした「二刀流献血キャンペーン」などの方策を講じている

(7) 献血推進組織の育成（献血関係研修会の実施）

① ライオンズクラブ国際協会 337-C 地区 1 R 会長及び三献委員長研修会

- ・開催日：令和 6 年 12 月 6 日
- ・出席者：県内各ライオンズクラブ会員 30 名
- ・内 容：血液事業の現状や献血実績、ライオンズクラブ体験発表等を報告
今後の献血者確保対策について討議

② 佐賀県市町献血担当者研修会

- ・開催時期：令和 6 年 5 月 24 日

(8) 献血についての情報提供

- ・佐賀県赤十字血液センターホームページ 検索「献血 佐賀」
- ・日本赤十字社佐賀県支部広報誌「赤十字さが」（年 2 回定期刊行）
- ・日本赤十字社佐賀県支部・唐津赤十字病院・佐賀県赤十字血液センター 3 施設合同「Instagram」
- ・X（旧 Twitter）「@saga_kenketsu」
- ・献血 Web 会員サービス「ラブラッド」

(9) 佐賀県献血推進協議会の開催

- ・開催時期：令和7年3月19日
- ・議題：令和7年度佐賀県献血推進計画（案）について

(10) 「けんけつ応援薬局」事業（佐賀県薬剤師会）

- ・献血後に交付される「血液検査成績通知表」を用いて、薬剤師が検査結果の見方などのアドバイスや必要に応じ医療機関への受診勧奨等を実施
- ・県内206薬局が参加

III その他の献血の推進に関する事項

(1) 令和6年度九州各県合同輸血療法委員会関係者会

（令和6年8月30日 博多バスターミナルビル9階大ホール）

- ・ワーキンググループからの報告
- ・輸血機能評価認定制度（I&A）について
- ・血液センターからの情報共有 等

(2) 佐賀県合同輸血療法委員会（平成22年度～）

- ・県内の輸血医療機関相互の情報交換及び研修等を実施することにより、適正かつ安全な輸血療法の向上を目指すもの

① 令和6年6月24日 合同輸血療法委員会世話人会

② 令和6年12月14日 第15回佐賀県合同輸血療法委員会

- ・佐賀県赤十字血液センターの血液事業についての報告
- ・医療機関からの活動報告
- ・輸血療法等最新の知見に関する講演 等

(3) 佐賀県公式ウォーキングアプリ「SAGATOCO」との連携

- ・SAGATOCOに献血をした日と献血会場を記録することでポイント付与（ポイントは「SAGATOKO」協力店で利用でき、各種サービス・割引等の特典を受けられる。）

令和7年度 佐賀県献血推進計画（案）

1 目的

この計画は、平成15年7月30日に施行された「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に基づき、本県において必要な輸血用血液及び血漿分画製剤用原料血漿を確保するために、「令和7年度に必要な献血者数の目標」及び「献血者を確保するために展開する事業」について定めるものである。

2 令和7年度献血目標

(1) 輸血用血液製剤の使用見込み数（本）

令和5年度から令和6年度の佐賀県内で使用された輸血用血液製剤の供給実績を踏まえて、令和7年度に県内の医療機関が使用すると見込まれる輸血用血液製剤数は以下のように推計される。（単位：本）

区	分	令和5年度 (供給実績)	令和6年度 (計画)	令和6年度 (R7.1末実績)	令和7年度 (計画)
	由来				
赤血球製剤	200mL献血	24	24	33	24
	400mL献血	16,693	16,518	14,622	17,742
血漿製剤	200mL献血	10	0	16	3
	400mL献血	961	1,287	1,167	1,107
	成分献血	1,709	1,644	1,526	1,987
血小板製剤	成分献血	3,666	3,326	2,614	3,505

(2) 原料血漿確保目標量（リットル）

免疫グロブリン製剤等の血漿分画製剤の原料となる原料血漿は、国が毎年度の確保目標量を示し、各都道府県の確保目標量を設定している。（単位：リットル）

	令和4年度 目標量	令和5年度 目標量	令和6年度 目標量	令和7年度 目標量
佐賀県	8,679	8,149	8,507	8,297
九州ブロック	147,861	139,644	142,818	143,957
全国	1,253,003	1,200,001	1,230,001	1,200,001

(3) 令和7年度に必要な献血者数(人)

上記(1)、(2)及び九州ブロック血液センターでの広域需給管理を踏まえ、下記の献血者数が必要と算出される。(単位:人)

		令和5年度 (実績)	令和6年度		令和7年度 (計画)
			(計画)	(R7.1末実績)	
200mL 献血		210	284	72	163
400mL 献血		19,752	21,286	17,061	20,500
成分 献血	血漿成分	9,727	8,513	7,315	8,556
	血小板成分	3,605	4,519	3,094	4,470
計		33,116	34,602	27,542	33,689

3 関係者の役割及び献血目標を確保するために必要な措置

《 関係者の役割 》

県内の医療に必要な血液を安定的に確保するため、県、各市町、佐賀県赤十字血液センター(以下、「血液センター」という。)、献血協力団体等が密接な連携のもとに、県民の十分な理解と協力が得られるよう事業を展開する。

- (1) 県は、献血に関する県民の理解を深めるための普及啓発を行うとともに、献血に協力していただく企業等の育成や献血に関する適切な情報提供など、献血の推進に必要な施策を実施し、血液センターによる献血の受入れが円滑に実施されるよう必要な措置を講じる。
- (2) 市町は、国及び県と協力して、献血に関する県民の理解を深めるため、普及啓発等を実施する。また、住民に対し、献血実施等について広報するなど、血液センターによる献血の受入れが円滑に実施されるよう必要な措置を講じる。
- (3) 血液センターは、国、県及び市町が行う献血推進の取組に積極的に協力するとともに、県と協議のうえ献血受入れ計画を作成し、献血受入れ体制を着実に整備し、献血者の受入れを推進するとともに、血液製剤の安定性の向上及び安定供給の確保、献血者等の保護に努める。

《 献血目標を確保するために必要な施策 》

(1) 献血に関する普及啓発活動

400mL 献血及び成分献血の推進、普及啓発に努める。

夏季及び冬季における献血者減少の解消のため、献血協力団体等の協力を得て各種キャンペーンを実施する。

- ① 「愛の血液助け合い運動」 (7月)
 - ・ ポスター等の広報資料の配布
 - ・ 献血推進協力団体に対する表彰
 - ・ 新聞誌上での献血広告掲載
- ② はたちの献血キャンペーン (1～2月)
 - ・ ポスター等の広報資料の配布
 - ・ 大型商業施設のデジタルサイネージを利用したキャンペーン CM 動画放映
- ③ 佐賀県献血推進キャンペーン
 - ・ 高等学校の校内放送を利用した献血啓発イベント
 - ・ 街頭キャンペーン
 - ・ ラジオ放送や SNS を活用したイベント告知やイベントの様子の情報発信
- ④ イベント会場等における移動採血車による献血
 - ・ 有田陶器市 (5月)
 - ・ 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ (11月) 等
- ⑤ 佐賀県学生献血推進協議会主催のイベントの実施
 - ・ サマー献血キャンペーン (7～8月)
 - ・ クリスマス献血キャンペーン (12月)

(2) 若年層対策

将来の輸血医療を支えることになる現在の若年層の献血や血液製剤への理解を深めるための普及啓発を実施する。

- ① 高校生を対象とした「献血セミナー」の強化
 - ・ 献血の意義や血液製剤についての理解を深める学校訪問型講習
- ② 県内高校に対する「高校献血」の積極的な働き掛け
 - ・ 献血バスを学校に配車
- ③ 小中学生等を対象とした献血プラザさが (血液センター) の見学受入れ推進
- ④ 児童を対象とした献血疑似体験イベント「キッズ献血」の開催
 - ・ 児童とその保護者に献血の意義や様子を紹介
 - ・ 疑似体験することで献血への不安を少しでも解消
- ⑤ 「はたちの献血キャンペーン」 (再掲)

- ⑥ 佐賀県献血推進キャンペーン（再掲）
- ⑦ インターネット、SNS等の様々な媒体を利用した若年層への献血PR

（3）献血 Web 会員サービス「ラブラッド」登録の推進

献血 Web 会員サービス「ラブラッド」及び同アプリへの登録について積極的な広報を行う。

特に、令和8年1月5日以降は献血カード及び献血手帳が、原則利用できなくなるため、献血者に対し「ラブラッド」への登録を積極的に呼びかける。

登録者にはSNSを活用した献血協力要請や各種キャンペーン等の情報提供を行い、状況に応じた献血者確保に努める。

（4）献献血予約の推進

「ラブラッド」による献血予約を推進することで、献血受付時間帯の分散化による献血会場の混雑緩和が図られ、利用者間の感染防止の観点からも有用であり、また、献血予約の状況を踏まえて献血協力要請を行うことができ、医療ニーズに応じた計画的かつ安定的な献血者確保が可能となることから、事前予約の重要性を広く県民に訴え、献血予約を推進する。

（5）Re献血の推進

献血の経験はあるが、長期間献血を行っていない方に協力を呼びかけ、献血者の掘り起こしを行う。

（6）市町における献血活動の推進

- ・ 各市町の献血推進活動を支援するために、県、市町、血液センター間での情報共有や連絡を密に行う。
- ・ 市町は、血液センターと移動採血車による献血の日程を設定し、協力団体及び周辺事業所等に対して積極的に周知し献血の協力を呼びかける。
- ・ 市町は、血液センター及び協力団体等と連携して、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成に努める。
- ・ 市町ごとに「市町成分献血の日」を定め、成分献血の推進を図る。

（7）全血採血 400mL 献血の確保

令和7年度計画の「400mL」献血者数を確保するため、献血プラザさが（血液センター）近隣の事業所及び団体、学校等への働きかけを更に強化し、平日を中心とした新規の献血協力を要請する。

また、献血バスについては、市町発行広報誌に献血実施日の掲載や献血告知チラシを配布するなど住民に対する事前広報等を実施し、安定的な献血者確保を図る。

(8) 献血推進組織の育成

献血推進ボランティア団体に研修会等を行うことにより、組織の充実強化を図るとともに、新たな組織作りや新規献血者の確保に努める。

(9) 県民への献血状況等の情報提供

血液センターホームページで公開している血液型別の「献血状況」（200mL、400mL、成分献血）を随時更新し、不足状況や緊急度等を情報発信する。

また、献血協力者に向けて「献血バス運行予定表」やキャンペーン、イベント情報等を掲載する。

情報掲載 URL <https://www.bs.jrc.or.jp/bc9/saga/index.html>

(10) 佐賀県献血推進協議会の開催

次年度の佐賀県献血推進計画の策定に係る協議のほか、献血の啓発方法、効果的な啓発品、献血思想の普及等について協議する。（1回/年開催予定）

(11) けんけつ応援薬局を活用した献血の啓発活動

献血後に交付される血液検査成績通知票を用いて、薬剤師が検査結果の見方のアドバイスや必要に応じて受診勧奨を行うことで、献血にインセンティブを付与し、献血者の増加に繋げる。

(12) その他

県、市町は、その職員に対し、ボランティア活動である献血への協力を積極的に呼びかけるとともに、献血しやすい職場の環境作りを推進する。

4 その他

(1) 採血の実施

① 献血プラザさが（佐賀県赤十字血液センター）

住所	佐賀市八丁畷町 10 番 20 号	
連絡先	TEL 0952-32-1011	FAX 0952-32-2002
献血受付時間	200m L、400m L	9:00～11:30、12:30～17:00
	成分献血	9:00～11:30、12:30～16:30
定休日	年末年始	

* 献血プラザさが内に「ご意見箱」を設置し、献血者等から寄せられた意見について、今後の血液事業に反映していく。

② 移動採血車（2台）

年間採血計画に基づき、県内各地に効率的に配車し県内全域で献血者の受入れを行う。

(2) 血液製剤の適正使用の推進

県及び血液センターは、輸血療法を行う医療機関に対して、血液製剤の安全かつ適正な使用に関する情報提供を行う。また、医療機関相互で血液製剤の適正使用について協議する場として、佐賀県合同輸血療法委員会を開催する。

(3) 災害時等における献血の確保等

① 自然災害

地震などの災害時には、血液製剤が大量に必要になり、また、震災発生地域における献血者の確保も困難となるおそれがある。

このため、県は、国、市町及び血液センターと連携して、災害時における血液が確保されるよう、各種の媒体を活用し、需要に見合った広域的な献血者確保を呼びかけるとともに、医療機関への血液供給が困難な地域においては、県境を越えた近隣血液センターとも連携し、血液確保に努める。

② 感染症の流行等

新型コロナウイルス感染症及びその他の感染症の流行下においても安定的に献血者を確保するために、その必要性についてHPや広報紙に掲載する他、様々な機会を捉えて献血への協力を呼びかける。

また、感染症ごとの特性に応じた適切な対策を講じ、感染後の献血待機期間等の情報を周知することで、献血協力者が過度な献血自粛を意識せず安心して献血できるよう努める。

(4) 適正在庫の確保

赤血球製剤等の在庫状況を常時把握するとともに、安定在庫の確保に努める。

また、在庫不足や不足が予測される場合には、日本赤十字社、厚生労働省のマニュアルに基づき、必要な対策を講じる。

注意報：適正在庫の 70% 割れ

警 報：適正在庫の 50% 割れ

* 適正在庫：平日平均需要量 3 日分